

通信・IT ネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの『知って得する最新情報』を、お世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発行のDDK通信、ぜひお楽しみください。

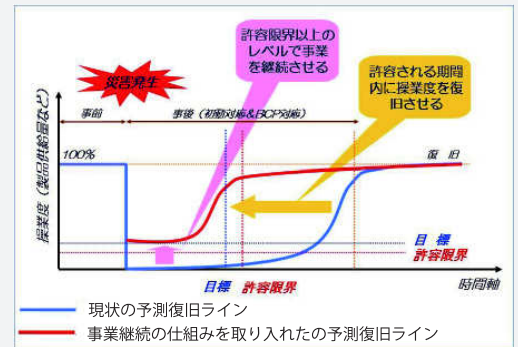
事業継続システム！？

はじめに

近年、「事業継続」という言葉をよく聞きます。昔は「危機管理」と言われていましたが、東日本大震災以降「復興」「復旧」と言う事に注視企業でも取組が進み、メーカーでも色々な商品を開発しています。

国でも「事業継続ガイドライン」を定めて、突発的な事態後に重要な事業を中断させない、または中断しても可能な限り短期間で復旧させる体制作りの推奨を行っています。

企業の「事業継続」への取組は復興への加速を期待でき、さらにはその企業の社会的信用度の向上に繋がります。



事業継続の方法

事業継続の一番のポイントは、情報化されている業務のデータをどのように守るかと言う事に尽きると言われていて、遠隔地にデータを避難させるシステムが注目されています。

ただ、企業の業務内容によっては、定期的にバックアップしておけば良い場合と、バックアップの即時性が求められる場合、さらには、サーバーその物もバックアップさせておく必要がある場合など、様々あると思います。

バックアップについて

遠 隔地事業所に定期的にバックアップします。最近では事業所間をVPNでLAN接続されている場合も多く、夜間などにWindowsのバックアップ機能やフリーソフトのバックアップソフトを使って簡単にバックアップする事ができます。全ファイルの無条件バックアップではなく、差分バックアップにする事でバックアップ時間も短くなります。

ク ラウドを使ったバックアップも簡単で、クラウド型ファイルサーバーにバックアップします。クラウドは災害対策もしっかり行われているところが多く、安くで借りられるクラウドもあります。

即 時性が求められる場合は「レプリケーション」と言う方法があります。まったく同じ状態を即時に作り出す仕組みで、専用のソフトウェアで簡単に構築する事ができます。

また、場合によってはプログラムやデータベースの抽出条件が常に変更にするなどデータだけでなくサーバー全体をバックアップする必要がある場合もあります。この場合はサーバーを仮想化し、そのサーバーを丸ごと遠隔地にコピーする事でバックアップできます。

